

# 『関西学院大学高等教育研究』の創刊を祝って

関西学院大学 学長

杉原 左右一

周知の様に、2010年4月に開設された「高等教育推進センター」の前身は、「総合教育研究室」と「情報メディア教育センター」でした。総合教育研究室で1972年より、また、情報メディア教育センターで1999年より研究開発してきました教育力向上（FD）と情報通信技術（ICT）に関する様々な研究成果が統合され、この度の「高等教育推進センター」開設の運びとなりました。これを機に、本学の教育・研究の一層の充実・発展がはかられますことを心より祈念するものです。また、これまで発刊してきました学術雑誌『総研論集』と『情報科学研究』を一誌に統合し、『関西学院大学高等教育研究』の名のもとに刊行されますことを心からお慶び申し上げます。

20世紀の学問の進展を振り返りますと、個別学問の進展には著しいものが見られます。しかしその反面、学問の細分化・制度化が著しく進行した結果、学問分野間の交流に支障をきたしたり、学問の目的そのものが見失われたりするという、学問の本来あるべき姿からはおよそかけ離れた状況が一部で生まれているという事実もあるのです。この様な状況をふまえて、21世紀においては、学問の深化と並んで、学問の統合化・総合化の視点が重要な課題であると思うのです。また、私たちを取り巻く環境は、グローバル化や情報技術の発展に伴い、地球規模での相互依存関係が深まっていますが、それにも拘らず、文化や国家間、学問分野間等に様々な「垣根」が存在することも事実でしょう。

この様な中、関西学院は2009年に創立120周年を迎えました。これを契機に「関西学院新基本構想」を策定し、特にめざす大学像として、「垣根なき学びと探究の共同体の実現」を掲げて教育・研究活動に真摯に取り組む決意を新たにしています。特に、学問の細分化、制度化の殻を打ち破り、統合化、総合化の視点を大切にしたい「木を見て、森も見る」姿勢、「虫の目と鳥の目を合わせ持つ」姿勢が今後の教育・研究活動において益々必要であり重要になると思うのです。

この様な観点から、『関西学院大学高等教育研究』の発刊が、関西学院大学のみならず、広く高等教育界における教育・研究活動の礎になりますことを祈念いたしますとともに、「高等教育推進センター」の航路を導く重要な羅針盤となりますことを願って、挨拶と致します。